

大学院学生各位
To All Graduate Students

令和5年度
基盤医学特論 開講通知
Information on Special Seminar Tokuron 2023

題目：CKD 診療 2024

Title：Treatment for Chronic Kidney Disease in 2024

言語 (Language)： 日本語 (Japanese)

講師： 今井 圓裕 先生

(中山寺いまいクリニック・院長、
藤田医科大学腎臓内科・客員教授)



Teaching Staff：Enyu Imai, M.D.

概要：慢性維持透析患者数は2022年に初めて前年度より減少し、新規透析導入患者数も減少した。CKD 診療の効果が表れてきたことを示唆する。透析導入の原因第一位の糖尿病関連腎臓病に対する治療の進歩は著しく、ACE 阻害薬、ARB、GLT2 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬、チルゼパチド、ミネラルコルチコイド受容体阻害薬などの有効性が報告されている。これらの薬剤を使用して糖尿病関連腎臓病の発症・進展を抑制することが期待でき、今後の透析患者をさらに減少させる可能性が示唆される。HIF-PH 阻害薬は新しい腎性貧血治療薬で、これまで使用されてきた ESA とは作用機序が異なる。エリスロポエチン産生を促進するだけでなく、鉄代謝を改善する。HIF-PH 阻害薬は5剤が発売されているが、全てが同等の作用を示すかは明らかではない。ダプロデュスタットとバダデュスタットの有効性と副作用を比較した。投与後3か月のHb上昇はダプロデュスタットが優れ、バダデュスタットはHbを上昇させるために、1か月後、2か月後に増量が必要となることが多かった。この結果、バダデュスタットで医療費が高くなる結果となった。
本講演では転換点にきたCKD 診療に関してトピックスを中心に解説する。

日時：令和6年2月8日(木) 18:00~19:30

Time: 18:00~19:30, February 8(Thu), 2024

場所：中央診療棟B 6階会議室2

Room: Meeting Room #2 on the 6th floor of the Central Consultation Bldg B.

どなたでもご参加いただけます。事前連絡は不要です。No registration required.

* 関係講座・部門等の連絡担当者:

病態内科学講座 腎臓内科 丸山 彰一 Tel:052-744-2192 (内線2192)

Contact: Department of Nephrology (ext. 2192)

医学部学務課大学院掛 Student Affairs Division, School of Medicine